（第3種郵便物認可）　2024年(令和6年)7月5日（金曜日）　読売

廃アルミで水素火力発電

ホテル三日月

26年本格稼働へ

ホテル三日月（木更津市）は、装置製造販売業「アルハイテック」（富山県高岡市）と協力し、空き缶などの廃アルミニウムを用いた水素火力発電事業に乗り出す。発電には館内や木更津市内などから出された空き缶などを利用し、2026年4月の本格稼働を目指す。（丸山雅樹）

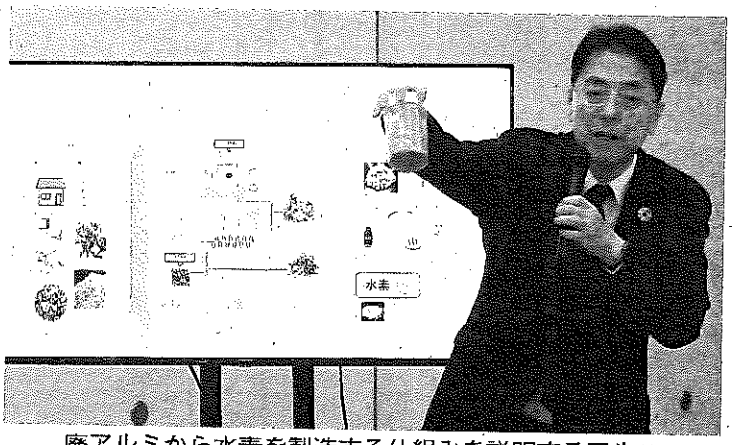
アルハイテックは、廃アルミから水素と水酸化アルミを製造する反応液を開発している。飲料パックの内側や錠剤のシートなどに貼られたアルミを分離する装置も製造しており、こうした技術に着目したホテル三日月が協力を打診。両社は戦略的パートナーシップ契約を結び、水素を使った火力発電の事業化に乗り出した。

計画では、木更津市北浜町の「龍宮城スパホテル三日月」の敷地内に、アルハイテックが開発した水素製造装置と、ドイツ製の水素火力発電設備を設置。廃アルミから作られた水素を使って発電を行う。

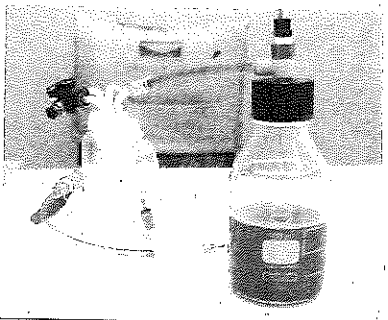
廃アルミは木更津市で回収された資源ごみや、リサイクル業者から調達するほか、同ホテルの「富士見亭」の客室フロア各階にアルミ缶専用のボックスを置いて回収する。調達量は年500～600トンを見込んでおり、廃アルミから作られた水素を使って発電することで、同ホテルで1年間に消費する電力の約45％をカバーできるという。

6月26日には締結式が行われ、アルハイテックの水木伸明社長は「再生された水酸化アルミは、人工大理石などの原料として販売できる。飲料パックからアルミを剝離した後の紙パルプも、トイレットペーパーなどに再利用できる」と説明した。

ホテル三日月の満間信樹COO（最高執行責任者）は「持続可能な開発目標（SDGs）に沿ってホテル内で資源循環を進めることはもちろんだが、お客様にアルミのリサイクルが役立っていることを見てもらうことで、行動変容に結びつけることが一番大切」と話した。今後、一定量のアルミ缶を持参した利用者への割引サービスなどの導入も検討するという。



廃アルミから水素を製造する仕組みを説明するアルハイテックの水木伸明社長（いずれも6月26日、木更津市北浜町の龍宮城スパホテル三日月「富士見亭」で）



会場では、反応液に廃アルミを入れて水素を発生させる実験も披露された

2024年 7月5日 読売新聞（千葉）